

矢作川流域圏懇談会通信

H27 山部会編 vol.6



発行日：平成 27 年 11 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 29 回山部会WGを開催しました！

10月16日（金）～17日（土）に第29回山部会WGが岡崎市ぬかた地区にて開催されました。今回のWGでは、山村再生担い手づくり、矢作川流域圏森づくりガイドライン、矢作川流域圏木づかいガイドラインに関する進捗が報告されるなど、今後の活動に対する話し合いが行われました。

日時：平成27年10月16日（金）～17日（土）
場所：岡崎市ぬかた会館（2階2～3会議室）ほか
参加者：28名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について



山村担い手事例集の取材者が決定しました。12月までに取材を行う予定であることを周知しました。

取材先	取材者
飯伊森林組合平谷事務所、天下杉、夕立山森林塾	近藤朗、石原淳
野外保育とよた森のようちえん、森のたまご、農村舞台アートプロジェクト、稲武山里体験推進協議会	溝口裕太、宇野利幸、Siti Norbaizura、蔵治光一郎
おいでん・さんそんセンター、老人福祉センターぬくもりの里、有間竹林愛護会	松井賢子、沖章枝、大森正昭
あさひ森の健康診断、あさひ薪づくり研究会、しもやま再来プロジェクト	高橋伸夫、田中五月、桑淳
あすけ聞き書き隊、山里センチメンツ	洲崎燈子、今村豊
コレカラ商店、ファーストハンド、トム・ヴィンセント氏	丹羽健司、吉橋久美子
鳥川ホテル保存会、額田木の駅プロジェクト、日近太鼓	清水雅子、井上崇也
蒲郡市魚場環境保全協議会、島を美しくする会	浅田益章、井上祥一郎

2. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて



森づくりガイドラインに関連して、本日は主に以下の2点について報告しました。

- ①矢作川流域市村（平谷村、根羽村、恵那市、豊田市、岡崎市）の間伐面積
矢作川流域市村全体の間伐面積は、2010年をピークに年々減少しており、特に昨年は大きく減少しました。国による間伐は搬出を義務付けていることから、間伐面積の半分を県税（搬出をしなくても補助金が交付される）に依存している状況です。
- ②矢作川流域市町村の森づくりに関する事例
行政に事例を募集したところ、長野県下伊那事務所、恵那市、安城市より回答をいただきました。



3. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて



木づかいの活動に関連して、以下の3点について報告しました。

- ①根羽物置
→10月に名古屋で行われた建築総合展では、サンプル依頼もありイベントに使いやすいと非常に好評でした。実物を見ていただき、ご購入いただきたい。
- ②根羽村におけるヤギの投入の事例
→遊休農地の除草対策だけでなく、村の活性化の起爆剤としたいと考えています。
- ③木づかいガイドライン
→現在は根羽村森林組合が主体となって実績を作っています。今後は流域に展開していきます。



4. 岡崎市額田地区におけるフィールドワーク



今回は額田地区において、以下のフィールドワークを行いました。

- ①千万町地区の砂防堰堤
→千万町小学校を含む集落を守るために大規模な砂防堰堤が愛知県によって建設されましたが、保全対策として守るべき小学校は昨年廃校を迎えました。
- ②切山の杉
→樹齢1000年以上の大杉は、枝からクローンを形成する珍しい巨木でした。
- ③乙川（西風橋周辺）の水量の減少
→子どもが飛び込むことは難しく確かに水位が低下しているように感じました。その一方で下流側の堰堤に砂が溜まって河床が上昇した可能性も指摘されました。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手づくり事例集について

<山村再生担い手事例集の活用>

- ・事例集の活用について嬉しい報告がある。人間環境大学の学生さんより農業・林業体験がしたいという申し出があったため、事例集を渡したところ、宮ザキ園での茶摘み体験を行うことになった。今後、額田林業クラブにも授業の申し出があるかもしれない。その時はよろしく願いたい。(沖)
 - ▶ この事例集がきっかけとなり、人と人がつながれば素晴らしいことである。(洲崎)
- ・この事例集をインターネットで閲覧できるとよい。(太田)
 - ▶ すでに豊橋河川事務所のホームページ上で公開されている。URL の拡散を望む。(洲崎)



●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

<①矢作川流域市町村の間伐面積>

- ・保安林整備事業に含まれる間伐は、その事業自体の予算が大幅に減少しているため、間伐面積は減少の一途をたどっている。造林や水源基金の名目での間伐が可能であるが、県の森林税では間伐はできない。(山田)
 - ▶ 森林税に保安林が含まれないという制約がついており、これが問題である。(蔵治)
- ・豊田市で補助金をつかった巻き枯らし間伐が、過去に 4 回確認されているが、なぜ一時期に集中したのか(沖)
 - ▶ 豊田市は巻き枯らしで間伐を進める予定であったが、景観の悪化や災害時の流木の問題から山主に理解が得られなかった。そのため、事実上巻き枯らし間伐は低迷している状況である。(蔵治)
- ・巻き枯らし間伐は、生態系にとって林床植生が発達するなど非常に良い効果が期待できる。(洲崎)
- ・千万町には、廃校となった小学校横に工事費 6 億~7 億円の砂防堰堤が建設された。そのお金を間伐の助成に使っていただけたら、災害は減ると思う。現在、千万町では小学生や中学生は一人もいない。農林業では生活ができないため、若い人の流出が止まらなかった。間伐の必要性は皆十分承知しているが、どうにもできない。(山本)
- ・愛知県の素材(丸太)の需要量のグラフでは、ピーク時(1973 年)の 1/40 に減少してしまった。これは矢作川流域に限らず愛知県、日本全体の傾向である。(蔵治)
- ・2014 年は、根羽村においても間伐面積が大きく減少している。これは、雪害対策に間伐のための予算が使われたためと考えられる。(今村)
- ・丸太が必要ないということだが、この部会ではその状況を打開する協議を行うべきではないか。(鈴木)
 - ▶ 豊田市は、そういう危機感から製材工場の建設を決断した。額田地区の方々、真剣に木材生産の未来を考えるなら、豊田の製材工場を活用する戦略を協議すべきである。(蔵治)

<②森づくりに関する事例>

- ・森づくりに関する事例収集については、流域の 3 団体の回答にとどまった。そのため、我々が他の事例を選定する必要がある。表現は工夫する必要があるが、どのような見せ方をすべきか。(蔵治)
 - ▶ 事例集の取材先をマップに載せる作業を行っているが、同じ地図に載せるとよいのでは(洲崎)
 - ▶ 今年度は、ベースを作成したいと考えている。(大森)
- ・特徴的な森づくりの事例というのは、あまり難しく考えずに、この森を見てもらいたいという発想でよいのではないか。(今村)
- ・森林組合などの一押し森(巨木・銘木にとらわれずに)を紹介してはどうか。(北川)
 - ▶ 引き続き、森林組合や部会からご推薦いただきたい。(蔵治)



●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- ・根羽村のヤギの放牧については、若者(子ども)の集客を期待している。今後はヤギの乳製品に展開したいと考えている。いずれの活動にしても必ず若者(子ども)が関わることを意識している。(今村)
- ・「あそべるとよた DAYS」は、豊田の中心市街地活性化を目的とする初めての取り組みであり、そこに根羽村が参画することになった。矢作川の上流域と下流域がお互いに元気になるような企画である。このような取り組みが流域に広がることを期待している。(洲崎)
 - ▶ この取り組みは、流域圏懇談会で毎回言われている「流域内フェアトレード」の見える化である。(今村)
- ・社会の需要を考えると、今は丸太ではなく別のものが求められていて、その時代に沿って考えているのが「矢作川流域圏木づかい」である。その主役は、流域内の若者や子どもであると考えている。(蔵治)

今後のスケジュール(予定)

次回の山部会 WG は、11月27日(金) 恵那市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijjnet.or.jp)までお送りください。

